



梢をロックオン

『樹と森を診てみる』

通年コース第五・六回開催報告

「測樹・施業診断、伐木造材」

前回が三角関数で、今回が√とは……。しかし、どんな樹がどのくらいあるかに始まり、樹幹のバランス・人口密度ならぬ立木密度を調べる

ことは、将来の予測と相まって、特に人工林の適切な管理には欠かせません。そこで、初日は、樹や森を診断してみ、今後の施業計



発行

KOA 森林塾
(事務局)

0265-70-7065

編集 坂野慎治

題字 島崎洋路



ハイ、傾けて～！！

画を策定してみました。もし、あなたが山主で、この林の手入れをしてみようという時、どのような林を想定して、どれくらいの頻度で、どんな手入れをするでしょうか。今回は班毎に意見を取り纏めていただきましたが、本来は十人十色、様々な想いや方法が出来るものです。そう

して、計画に沿った保残木を決めたら、間伐の実践ということになります。現在の山仕事ではチェーンソーが欠かせないので、二日目はその使い方と伐倒の実践。エンジンをかけて丸太を輪切りしてみる。刃が高速で回転するので、構え方や脚の位置などしっかりとした体勢で動かすことを心がけましょう。橋渡し材の伐り方など一通りの使い方をやってみたら、いよいよ伐倒です。樹の傾きや枝張り、隣接木との関係をじっくり観察して伐倒方向を決める。受け

口・追い口とつるによる伐倒の仕組みを理解して退避路を確保したら、やはりここでもしっかりとした体勢でチェーンソーを使うことが肝心です。通年コースでは今後も間伐や伐出のときに、チェーンソーを使った伐倒の機会がありますので、あせらずに伐木造材の基本を習得していただけたらと思えます。



早い者勝ち？保残木

通年コース

第五・六回

7月14日(金)

測樹・施業診断

8時30分

島崎先生の山小屋に集合。早川講師の挨拶。そして測樹の講義。三種類の指数を使って現状を診断し、今後の施業を考えるために欠かせない調査。

9時

班分けをして、身支度を整え、機材を持って現場へ。小屋から程近い、ヒノキ林で各班測樹開始。10m×10mのプロットを設定し、胸の高さの直径測定と、梢をさがして樹高

11時

測樹を終了し、小屋でデータ整理。専門用語が……。√の計算が……。頭脳を蝕んでゆく？。

12時5分

昼食。

13時5分

早川講師による林分形状比・地位指数・相対幹距比の説明。各指数の意味するところ、考え方をよく理解して下さい。計算式はあくまでも算出方法なので機械的に。

13時35分

今後の施業計画を策定する。現状ではそんなに混んでない今回の調査林分さて、このまま資源林管



しっかりとした体勢で、輪切りから

理を継続するか、近くに遊歩道が巡る環境から針広混交林へと転換をはかるか。悩みの数だけ将来の楽しみが増えると思うと、相対幹距比の逆算もなんのその、保残木数を割り出して、

15時

各班、調査地へもどり、保残木をマーキング。形質の良し悪し、枝張りや樹高、林内のバランスなどを考慮して、早い者勝ち？

15時45分

小屋へミズホ鋼機さんが来てくれて、林業用具の展示会を開催してくれました。鉋・鋸はもちろん各種カタログやチェーン

8時30分

島崎先生の山小屋に集合。講師挨拶、日程説明など。昨日の施業方針の発表と講評を各班毎に行う。資

8時40分

7月15日(土) 伐木造材

16時45分

講師講評と諸連絡にて、終了、解散。お疲れ様でした。

ソー・保護めがね等など盛り沢山。注文された方は、来月の間伐初日朝に現品と代金を引き換える予定ですのでよろしくお願い致します。



水平を保って、追い口伐りへ

源林としての施業と針広混交林へと誘導していく施業に分かれました。

9時10分

昨日と同じ班構成で、小屋下の林道へ向かう。お待たせしましたチェーンソーの時間です。

9時20分

体操の後、早川講師によるチェーンソーの指導方法と注意事項の講義。無理をせず、自分には不適だと感じた時は、すぐに作業を中断して下さい。

9時35分

体操の後、各班に分かれて丸太の輪切り。しっかりと体勢を整え、身体の前でチェーンソーを扱いましょう。まずは、伐り下ろす、伐り上げる、廻し伐る。そして橋渡し状態の造材を行いました。

10時30分

一通りの造材を終了した班から順次伐倒現場へ。枝張りや幹の傾き、隣接木との間隔など伐倒方向の選定や受け口・つる・追

12時10分

伐倒に受け付けて、いよいよ伐倒に取り掛かります。各班毎に現場で昼食。

13時

伐倒再開。緊張の作業が続くも、狙い通りの方向へ倒れたことやその時の音、そして伐倒後の林内の様子に、汗とともに充実感がにじむ。枝払いや玉切

15時20分

講師総括。諸連絡をして終了、解散。お疲れ様でした。濡れてしまった方、体

14時50分

突然の雷雨に見舞われ、作業を終了し、急いで小屋へ戻る。

調を崩されませんでしたか。
参加者/石垣さん、石田さん、石原さん、榎さん、大村さん、川越さん、小池さん、坂上さん、高野さん、高橋さん、長田さん、堀江さん、山本さん、吉永さん、園田さん、長坂さん、講師/早川講師
スタッフ/大野、川島、後藤、平林、坂野



『退避路と立ち位置と』 専門コース第二回開催報告

急な尾根道を道具を担いで徒歩で登る。アカマツを主体とした林分にカラマツが混じる新山の現場。ネジキやリョウブなどの灌木が生い茂り、谷へ向かって急角度で傾斜している南東斜面。伐倒方向を見定め、退避路や足場を確保するために、灌木の除去から作業を始める。

傾斜地での伐倒では、足場を頻繁に変えること事体が危険を伴うので、傾斜の上方で伐倒方向に垂直な、受け口も追い口も伐り終わりが身体

体の中心で、なおかつ覗き込んで反対側のバーの状態が見れる立ち位置と、そこから安全に退避する方向を見出さなければならぬ。

伐倒後の枝払いや造材でも、傾斜の上方で、枝や幹の状態を瞬時に見極め、適切な体勢をとらなければ危険。そんな緊張の三日間。伐

倒の経過を全て先にイメージすること、枝や幹の動きを予測することに努めました。

専門コース第二回開催

7月6日(木)

～8日(土)

一日目

8時25分

島崎先生の山小屋に集合。講師、事務局の挨拶。今回の現場は、伊那市新山。上伊那林業士会がマツタケ復活を目指しているアカマツ・カラマツ混交林です。そんな現場の説明や前回の専門コース以降の伐倒経験などをお聞きし、また、チェーンソーのメーカー比較やソーチェーンの刃の寿命などの質疑応答を行う。

10時20分

軽トラに分乗し、現場へ

向かう。途中、アウトドアショップでボイズンリムーバーを購入。

小屋へ。途中、文房具店に立ち寄り、チョークホルダーを購入。

め、足場と退避路を確保したら、受け口・追い口の伐倒へ。

選択した伐倒にも挑戦。作業終了、小屋へ戻る。

幸いです。なお、5日(土)は伊那まつり。踊りはもちろん、花火やフリーマーケットなどなど。御用とお急ぎでない方は見ていってください。

11時15分
現場の麓着。機材を準備して、

17時10分
終了、解散。

11時30分

徒歩で急な尾根道を登る。

11時40分

現場着後、昼食。

12時30分

伐倒開始。アカマツを残し、カラマツを全て伐倒する作業予定。ひとつひとつの工程を確認しながらの伐倒。谷側は急傾斜となっており、足場や退避路の確保など慎重に作業を行う。

8時25分

島崎先生の山小屋に集合。講師挨拶、日程説明。

8時40分

分乗して新山へ向かう。

9時20分

機材を準備して現場へ。

9時40分

現場着後、チェーンソーの試運転をして、伐倒開始

伐倒のイメージを描き、危険を予測して、対処法を先に考え、準備を怠らない。そして、方向を決

16時10分

作業を終了し、車へ戻る。

三日目

17時

小屋へ戻り、終了、解散。

8時20分

島崎先生の山小屋に集合。講師挨拶、日程変更説明。

8時25分

分乗して新山へ向かう。

9時20分

現場着後、チェーンソーの試運転をして伐倒開始。二本程度を対象に伐倒順を考慮しながら作業を進める。また、今回の総仕上げに、周辺の空間が少ない方向を

13時5分

伐倒再開。伐倒方向に対して、受け口水平伐りと追い口伐りは直角となる。その立ち位置を探索しながらの伐倒や矢を使った伐倒が続く。

14時30分

ワイヤーのフレミッシュ加工という簡易なアイ加工を行う。

16時40分

三日間の作業を終了し、講師講評。次回連絡の後、解散。お疲れ様でした。

16時

作業を終了。一昨年にマツタケが発生したという現場を見学に行く。

16時

作業を終了。一昨年にマツタケが発生したという現場を見学に行く。

16時

作業を終了。一昨年にマツタケが発生したという現場を見学に行く。

16時

16時

16時

次回以降の予定

集中コース夏の部

8月3日(木)

～8月5日(土)

KOA森林塾のエキスを集めた三日間です。樹を測る測樹やチェーンソーを使った伐木造材、そして簡単な集材まで一通りの事をやってみます。あれやこれや盛りだくさんですが、何かひとつでもお持ち帰りいただければ

第七・八回

8月25・26日(金・土)

間伐

特別講師の島崎先生による保残木マーク法の間伐。調査・伐倒の一連を行う予定です。

8時30分、島崎先生の山小屋に集合。初日の朝に、ミズホ鋼機さんが見えになります。マイチェーンソーを使いたい方は、その手入れをしてみたい方は、お持ちください。雨具もお忘れなくご持参ください。

また、25日の夕方からバーベキューで一杯、暑気払いをしましょう。



角度を保持して



山側に立って

現場着後、チェーンソーの試運転をして伐倒開始。二本程度を対象に伐倒順を考慮しながら作業を進める。また、今回の総仕上げに、周辺の空間が少ない方向を



リレー通信

「森に想う」

川越 康博



通年コースを受講しています、川越です。埼玉の高麗という所から参加しております。関東平野の縁。地図でいう緑色が茶色に変わるあたりであり、家のすぐ裏から山が始まり、秩父の方に連なっていくといった所です。タヌキ・ハクビシン、年に数回イノシシが出てくるような所ですので、森林塾の開かれています伊那の山小屋の辺りはスケール感こそ全く違いますが、同じような所に来ているという感じです。二十五年程前に自然のある所に

住みたいと思い、東京の方から移り住みました。

五月の一回目の研修の帰り道、車で坂を下っている、目の前に南アルプスの山並みがパノラマ状に広がっていました。思わず車を止めてしばし見入っております。新鮮で懐かしい風景。どこかネパールのボカラから見た風景にも似ているなと思いました。学生時代、ワングルの手作りの山小屋が乗鞍の番所という所であり、よく来ておりました。それが信州との最初の出会いです。改めて振り返ってみると、昔から意識して動いているのではないのですが、森や木に縁があるんだなあと感じました。今回、森林塾に参加するのも特別な目的や意識があった訳ではないのですが、たまたま雑誌で島崎先生の記事を読ませて頂き、山や木に対する知恵や技術を習いたい、身に付けたいと単純に思ったのです。

昔から手を動かす事、体を動かす事は、頭を動かす事より好きでした。と言っても、最近では体力の方は心もとな

いのですが…。
もともと建築設計をやっていたのですが、見ず知らずの土地に引越して

た段階で仕事があるはずもなく、しかたなく、インドカ

レーの店を始めました。もちろん手作りでした。並行して少しずつですが、主に住宅の設計をやってきました。木造の場合は、軸組現し、床は三十八mm厚・百八十mm巾の本実加工をしたサワラ（KOA）森林塾ではどうも少し軽くみられているように感じますが、僕は好きな材木です。のむく板。柱は四寸・五寸・七寸角の杉か檜のむく。壁は漆喰・珪藻土・むく板張。といったような極力、自然で素直な材料をスタンダードとして使ってきました。ビールクロスや化粧合板などは使った事がありましたが、普通から言えば特殊なものかもしれません。最近では、「エコ住宅」、「環境にやさしい」、「ロハス」、「スローな生活」、「木の家」などの言葉があふれています。いい事だなと思う一方で、どこか引いている自分があり、またマンネリぎみになっていった事も事実で、五年程前に病気をした事をきっかけに、設計の方は休んでおります。

現在の田舎で二十年以上暮らしてみても、最近実感として感じるのですが、相続とか土地とかの問題で何か大きく変わる気がしています。三

十年程前に一つの波が来て、今度また次の波が来る、

自分もそんな波の一つに乗っているのでしょうかから、大きな事は言えないのです

が、どうも悪い方に変わるなあとこの予感です。僕らは日々、目の前の事の対応に追われる日常を送っている訳ですが、時には少しアングルをグーッと引いてみて、大きな時間が流れているのを感じる必要があるように思います。何かで読んで、うる覚えにしか思い出せないのですが、たしか生き物の中で植物というのが一番宇宙の真理みたいなものを体現している、宇宙の真理みたいなものに一番忠実に生きてるのが植物だ、みたいな事だっ

たと思う。樹も同じでしょう。確かに、あてがわれたものを全て受け入れ、動く事もできず、その中で毎日毎年を規則正しく生活している姿は、なんて健気なんだろう。いいながら、今回の伐倒でチェーンソーで追いつく入れ、樹がドッカーンと倒れるのはチョットした快感でした。まあ、イイカゲンなものです。

日本の人口は、五十年後は現在の七十%、百年後には約半分になるそうです。江戸から明治に移る時の人口の約三千万人、四千万人に近づくらしい。地球全体の人口は爆発的に増えるのと逆の事態。日本は小さくなってい

くんですネ。百年後の世界は、今は全く違った状況なのです。チョット視点を変えれば、百年前なんてついこの前だったとも言えるし、百年後なんてすぐやって来るのかも知れない。当然、僕らみんないませんが…。その時、植えた樹はどうなっているでしょう。陽が当たるようになった実生の樹はどうなっているのでしょうか。そんな大きな時間のサイクルを共有してみたい。今、目先の価値観で右往左往している自分を、そんな時間の中に少しでもシフトしてみたい。

今回の三回目の研修は、初めて天気めぐまれ、蒸し暑い日でした。休憩時まだ小さな実生の樹の間にゴロツと横になると、木立の間に青空が見え、冷んやりとした風が吹き抜けていました。手入のされた森は気持ちのいいものです。そんな森が増えたらいい。そこに自分も少しでも関わられたらいいなと思います。どうぞよろしくお願ひします。

日本の人口は、五十年後は現在の七十%、百年後には約半分になるそうです。江戸から明治に移る時の人口の約三千万人、四千万人に近づくらしい。地球全体の人口は爆発的に増えるのと逆の事態。日本は小さくなってい

くんとすネ。百年後の世界は、今は全く違った状況なのです。チョット視点を変えれば、百年前なんてついこの前だったとも言えるし、百年後なんてすぐやって来るのかも知れない。当然、僕らみんないませんが…。その時、植えた樹はどうなっているでしょう。陽が当たるようになった実生の樹はどうなっているのでしょうか。そんな大きな時間のサイクルを共有してみたい。今、目先の価値観で右往左往している自分を、そんな時間の中に少しでもシフトしてみたい。

コラム

森林塾終了後、七月十五日の夜から降り始めた雨は、その後十六、十七、十八そして十九日の朝まで降り続き、一部地域に避難勧告が出るに

至りました。
十九日の朝、小降りになっ

たところで、川は一体どうなっているのだろうか？と野次馬根性がうずき、天竜川まで下って見ました。すると、普段穏やかで水量も少ない姿が一変！ 激流に変わっていました。

「暴れ天竜」の異名を持つ天竜川。地形形状の特性から、上流の諏訪湖からの放水と、中央・南 西アルプスから流れ下ってくる水が、伊那谷の谷底に位置する天竜川に全て流れ込むわけですから、ダムなどなかった時代はさぞかし、その流れ下る姿は暴れる天の竜に見えたのでしよう。

「イントラ 川島」

おわりに

樹の名前を知り、広さを調べ、森を診てみて、手入れをする。次回からは間伐・伐出・枝打ちと手入れの実践が佳境に入ります。

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。

TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994



E-mail:
sh-sakano@koanet.co.jp
ki-hayakawa@koanet.co.jp
携帯:090-4463-0062 (開催日)
URL http://www.koanet.co.jp